



[評者]

徳田 安春

群星沖縄臨床研修センター長

ジェネラリストのための 内科診断リファレンス 第2版

酒見 英太 監修

上田 剛士 著

●B5 頁1200 2024年04月

定価：11,000円(本体10,000円+税10%)

[ISBN978-4-260-05237-5] 医学書院刊



10年前にも本書の書評を書いた。本書を読んだ感想をまとめると、「本書はシステム2的な分析的推論を行うための当時最強のツールであり、EBM実践のためのクイックなデータブックである」、であった。臨床疫学各論必携本と呼んでもよい。

あれから10年、われわれジェネラリストが待っていた第2版がついに出了。待ちこがれていた理由は、医学は日進月歩で変化し発展するからだ。新たな疾患概念や病歴、身体所見、そして診断検査のデータを供給する論文が無数に出版されている。この第2版では3万もの論文の中から新しくかつ重要な情報を追加してくれている。

本書の改訂でさらに注目すべきは、上田剛士先生流クリニカルパールが随所に記載されていることである。総合内科と救急の現場で研修医や専攻医を直接指導するジェネラリストが日々直面し解決してきた臨床問題への最適解がパールとなって輝いている。加えて、重要論文の写真のサイトへ飛べるQRコードなども付いており、学習者を助けてくれている。

疫学データも常に変化する。さまざまな症候の鑑別診断で挙げられる重要疾患の事前確率も変化する。最新の臨床疫学データを用いてEBMを実践したいと思う人々には、この改訂版を病棟、外来、自宅に置いておくことをオススメしたい。

最近、診断エクセレンスへの関心が集まっている。患者の健康問題の診断を正確かつタイムリー、そして効率的に実践するプロセスのことだ。これを実現するために現場の医師に求められるのは、アートとサイエンスの卓越した実装である。つまり、患者さんに共感を持って医療面接と身体診察を実施し、臨床疫学データに基づく臨床推論を正確かつ迅速に行うことだ。

診断エクセレンスのための実装はそう簡単ではないが、本書を活用することが助けになる。特に、本書を参照する習慣を身につけ、最新の臨床疫学データとクリニカルパールを迅速に取り出すことで、アートとサイエンスにおける卓越した実装につながるだろう。